

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	びーすの児童デイ あぼろ		
○保護者評価実施期間	R6年 1月 20日		～ R6年 2月 29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	R6年 3月 1日		～ R6年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 9月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	発達特性に合わせて、構造化された環境やスケジュール、コミュニケーションのためのカード等の視覚支援を提供している。	部屋ごとに最大人数を設定し、個々がより活動しやすい環境を作っています。利用児ひとりひとり自分のスペースを確保し、自分のスペースに個別のスケジュールを用意しています。共有で使うカードの以外に、個々の好みや気持ちを表出できるような個別のコミュニケーションボードを用意しコミュニケーション力のアップを目指して支援しています。	サービス担当者会議には積極的に参加し、家庭、学校、他事業所と連携を図り、必要であれば、コミュニケーションカードを共通の物を作成・使用するなど支援の共有も行っています。
2	活動内容は自由時間以外に、個々の特性や好みに合わせ個別の活動を用意している。	自由時間の過ごし方が得意ではない児童も多いため、個々の特性、好みを考慮した過ごし方を提供している。平日は、年齢に合わせた活動を行い、「学習・アート・家事練習・散歩・買い物」などのプログラムを行っています。長期休暇には「友達と楽しむ」をテーマに、外出や調理などの特別プログラムを行っています。	どの活動も、基本プログラムを実践するにあたり、一人一人の好みや意欲を大切に具体的な準備を行い、また、個別の特性や能力に合わせた支援グッズを用意するなどの工夫を行っています。
3	様々な場面で「自分で決める」場面を取り入れ、自己選択の練習を行っています。	土曜日は余暇を楽しむプログラムとして、買い物や公園など外出先を自分で決めたり、クッキングの内容を選んだり、同じプログラムでも好みや気分によって一人ひとり違った内容になるように工夫をしています。平日も同様、個別で活動をする場面では自己選択をする場面を多数用意し、選ぶ楽しさを感じられるように支援しています。	実践するにあたり、一人ひとりの好みや意欲を大切に具体的な準備を行い、具体的にどんなことをするのか分かるような特性や能力の合わせカード等の視覚支援グッズ(手順書や外出先の道順など)を用意するなどの工夫を行っています。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	カームダウンする部屋を作ることができていない。	スペース的に個別の部屋を作ることが難しい。	パーティションやデントを用意し、1人で過ごせる空間を作っている。時間の構造化を行い、こども同士の相性を考慮し活動内容を決めることや、必要に応じて外出活動を取り入れ、リラックスして過ごすことができるよう活動内での工夫を行っている。
2	面談以外の情報共有の機会を持つことができていない。『事業所の中の様子』『どんなスタッフがいるか』『どのようにこども活動に参加しているか』など「わからない」のアンケートの回答に繋がっていると考えられる。	利用開始前は見学を必ず行い、こどもたちがどのように活動しているかを見ていただいているが、利用開始後、こどもたちが実際にどのように活動しているのか保護者は見る機会がない。	面談時に写真や動画でこどもの活動時の様子を見ていただくこともあるが、毎回はできていない。利用開始後にも定期的に見学の機会を作りこどもがどのように過ごしているのか、実際に見ていただき、事業所やスタッフのことを知ってもらい、保護者との信頼関係の強化に繋がってほしい。
3			